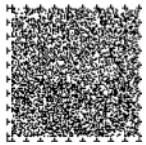


たがやせ
あそび
ごころ!

せ た が や の
外 遊 び





遊びは 学びと育ちの 土台です

これなんだろう？
やってみたい！



人は、生まれたすぐあとから、新しい世界に目を輝かせ興味を示し始めます。未知のものへの「これなんだろう？」という興味関心が遊びの原点。

五感を通して外の世界を知りたいという欲求から、「やってみたい！」という主体性が生まれます。やらされてやるのではなく、「やってみたい！」から主体的に始まるのが遊びです。





自分で できる

砂でお山を作ったり、そこに水を流してダムを作ったり…。自分の行いがモノの形を変え、次々と変化していくのを楽しむ様子は、子どもが世界との関わりを持つ第一歩です。

“私ができる”ことを感じることは、自己認識と自我の確立に欠かせないこと。遊びを通して自立心の基礎を築きます。



まねっこ

子どもは大人や周りの異年齢の子どもの行動をよく見えています。あんな風になりたいな、やりたいな。他者への憧れが自分をのばす意欲につながります。



そとあそびプロジェクト・せたがやは、
外遊びのネットワークづくりをしています。

詳しくは
Webで!

sotoasobisetagaya.net



だれかと一緒に

鬼ごっこやドロケイ、ドッジボール…。一緒に遊ぶ仲間がいると楽しさは何倍にも大きくなります。仲のいい友達と一緒にだったら、ただのんびりおしゃべりしてるだけでも楽しいもの。

仲間との経験は、ケンカして仲直りして、お互いの意見に折り合いをつける機会を与えてくれます。



外への誘い

家の中や屋内の遊びも楽しいけれど、外に出ればもっとたくさんの刺激と可能性が待っています。

四季の移ろい、自然の変化、ダイナミックに仲間と一緒に思いっきり走り回れる広いスペース。外遊びは思いがけない可能性に溢れ、遊びの枠を広げてくれます。



ココロとカラダを 育てる外遊び



ココロを育てる

豊かな遊びのなかで、やりたいことを「やりきった」子どもたちは、自分ではできる!という自信=自己肯定感をつちかいていきます。私はわたしでいいんだという自信は、未知なるものへの挑戦や、みたことのない世界への冒険に挑む勇氣、そして失敗しても立ち上がれる強さ(レジリエンス)を与えてくれます。

子どもたちは、遊びの中で仲間とたわむれ、失敗を乗り越える経験をとおして、テストでは測れない協調性や創造性や自制心といった非認知能力を高め、生きる力を育てていきます。

カラダを育てる

夏の暑さ冬の寒さ、太陽の日差しに肌をなぞる風、土や木や水といった自然物のダイナミックな刺激が感覚器官と自律神経系をつなぎ、身体の基礎と強い免疫系を作ってくれます。自然の素材は人工物にはない、触感や匂い・色彩などの複雑な刺激を脳に与えてくれます。

また、外遊びで思いっきり走ったり、飛んだり、ぶら下がったり、大きな動きは体幹を鍛え、トータルに身体の成長を促してくれます。

せたがやに外遊びをひろげよう！

育った環境の影響をさほど受けていない小さな子どもたちに、世界各地の写真を見せます。すると、多くの子どもたちが好んで選ぶのが、森林の隣に開けた草原の写真だそうです。

向こうに地平線と森が見え、あまり高くない木が点々と木陰を作り、ところどころに見える水溜りに青い空がうつっています。そばにはのんびりと大型の草食動物が草を食べていて、近づくると地面には木の実や種子が落ち、根茎の植物を掘り出せそうな小枝もあります。原っぱや空き地や河原の土手は子どもの遊び場の中で多様な遊びを工夫できる、どんな人数の仲間でも一緒に遊べる大事な場所です。都市化が進むと、草原色の開けた空間は街中から消えていきます。

次第にそのような空間がなくなる中で、世田谷区には4カ所のプレーパークと、多摩川そばのきぬたまあそび村があります。小さな公園や子育て広場近くに外遊びを届けるプレーリヤカーやプレーカーの活動もある、日本の外遊びのメッカのような場です。いままたひとつ外遊び拠点が官民協働で作られようとしています(砧地域にプレーパークをつくろうネットワーク)。

長い時間をかけて外遊びをしない生活になってきた現代の子どもたちは、場があるだけでは遊べなくなっています。「遊び」の魅力や面白さを子どもたちに伝えていくことと、子どもたちが自ら新しい遊びを創り出せるようそっと励ますことが必要です。みんなで外遊びを伝え、外遊び人口を増やすために、「いま」できることを一緒に始めましょう。

そとあそびプロジェクト・せたがや 代表 吉永真理 (昭和薬科大学 教授)

砧地域にプレーパークをつくろうネットワーク

<https://www.facebook.com/kinutaplaypark/>



世田谷区の取り組み

外遊び推進員

子どもたちの外遊びの場や機会の充実には、地域の住民の皆さんや保護者の方等、周りの大人の理解や協力が必要です。

外遊びに関心を持ち、協力してくれる大人が増えていこう、外遊び推進員が外遊びの大切さを伝え、地域で外遊びを推進するための人や団体のつながりをコーディネートする取り組みを進めています。



外遊び推進員についての最新情報はWebサイトをご覧ください

砧地域のプレーパーク設置に向けた取り組み

砧地域へのプレーパーク設置を目指し、区と地域の方が協働して、機運を高めるため、また砧地域の外遊びを支える担い手発掘・育成のため、砧地域での外遊びの啓発に取り組んでいます。



砧地域のプレーパークの最新情報はWebサイトをご覧ください

遊びマップ調査

児童館に遊びに来ている子どもにインタビューを行い、区内の小学生が普段どんな遊びをしているのか、調査を行いました。地域の子どもの遊びの現状から、地域の大人が子どもの外遊びについて一緒に考える機会を作っています。

世田谷区は外遊びを 推進しています

子どもは季節を感じながら屋外で仲間たちと思いきり遊び、たくさんの体験を通して豊かに成長していきます。しかし、近年は、都市化、少子化、ゲームの普及等で、子どもの遊びは屋外遊びより屋内遊びに、また遊びの種類減少・単純化、集団遊びをしている姿も以前より少なくなってきました。

世田谷区は、子ども計画(第2期)の中で、子どもの生きる力を育むため、すべての子どもたちが身近な場所でいきいきと外遊びができるよう、外遊び体験の推奨を掲げています。

すべての世田谷の子どもたちに外遊びが届くように、世田谷区にあるさまざまな外遊びの場と機会の充実、また区内の外遊びを推進する民間団体「そとあそびプロジェクト・せたがや」と協働し、地域の住民の皆さんとともに外遊びを推進する仕組みづくりや砧地域へのプレーパーク設置に向けた活動等に取り組んでいます。

世田谷区の外遊びに
関する詳しい情報は
Webサイトをご参照ください。



発行：世田谷区子ども・若者部児童課
TEL 03-5432-2254・FAX 03-5432-3016
協力：そとあそびプロジェクト・せたがや

発行：令和4年5月

プレーパーク

詳しい情報はこちら→



プレーパークは自分の責任で自由に遊ぶ冒険あそび場。子どもたちの好奇心を大切に、やりたいことができる環境を、区と地域住民との共同事業としてNPO法人プレーパークせたがやと地域ボランティアが運営しています。

常駐のプレーワーカーや地域のボランティアの方たちのもとで、焚き火や泥遊び、木登りなど、子どもたちが自由に遊びをくりひろげています。

区内には4カ所のプレーパークがあります。羽根木プレーパークは日本で初めての常設型プレーパークとして、今なお先進的な取り組みとして全国的に注目されています。

現在、砧地域のプレーパーク設置に向けて取り組みをしています。

運営：NPO法人 プレーパークせたがや →
(羽根木プレーパーク・世田谷プレーパーク・駒沢はらっぱプレーパーク・烏山プレーパーク)



きぬたまあそび村

詳しい情報はこちら→



広い空の下、多摩川の風・水・火・土を肌で感じてのびのび遊べる、自然をテーマにした遊び場・居場所づくりをしています。川や河川敷原っぱではたくさんの生き物との出会いがあり、自然の楽しさを教えてくれます。子どもだけでなく、子育てパパママの交流の場にもなっています。NPO法人砧・多摩川あそび村に運営が委託され、プレーワーカーや子育てサポーターが、地域での子育てをみんなで楽しむ環境づくりをしています。

運営：NPO法人 砧・多摩川あそび村 →



プレーリヤカー

小さなリヤカーに遊具を積んで公園に仮設の遊び場を作ります。主に乳幼児親子〜就学前の子どもが対象。土・泥・水遊びやまごど遊びを行います。地域住民による団体が主体となって活動を行なっています。

- 玉川まちづくりハウス(ねこじやし公園・奥沢公園)
- ちびたまあそび村(次大夫堀公園えのき広場・大蔵運動公園SL広場・岡本公園)
- プレーリヤカー KOPAN(梅丘北公園・三軒茶屋ふれあい広場)
- たまごとひよこ(将軍池広場・上祖師谷パンダ公園・芦花公園内とんぼ池観察小屋周辺)
- ワーカーズコレクティブ子育て応援チームすこっぷ(南台公園)
- はらっぱレンジャー遊び隊(小泉公園・新町公園・上用賀公園・上用賀三丁目公園・三島公園・用賀二丁目公園・瀬田二丁目公園)
- キッズステーション012(玉川上水緑道そば「大原かるがも公園」)
- にじ(北烏山三丁目公園)
- あそびつくろえ〜ぶ(笠森公園、希望丘中公園)
- チャミー shimokita(下北線路街空き地)
- 北沢おせっかいクラブ(北沢公園)
- 子育て支援グループamigo(弁天児童遊園)

プレーリヤカー・プレーカーの詳しい情報はこちら



- プレーパーク
- プレーリヤカー
- プレーカー
- 自主保育



プレーカー

プレーカーは、子どもの遊ぶ環境が必要とされるエリアに向く「遊びの出前」活動です。バンに遊び道具を積み込んで公園に向きます。地域に住むみなさんと共に「子どもの外遊び環境」を考え、地域住民自ら「こんなことをやったら面白いよね!」に挑戦する機会と場を作っています。遊びの出前を通じ、プレーカー 多世代によるゆるやかなコミュニティを生み出すことを大切にしながら活動展開しています。

運営：プレーパークせたがや
(玉川野毛町公園・二子玉川公園)



せたがやの そとあそび 活動マップ



公園

世田谷区内には619カ所以上(令和4年4月現在)の公園や緑地があり、区民参加による誰もが利用しやすい公園づくりを推進しています。公園は、みどりとみずの拠点であるとともに、多くの方々に親まれる憩いや遊びの場です。

おでかけひろば

詳しい情報はこちら→



子育て中の親子同士が気軽に立ち寄り、一緒に遊んだり、情報交換をしたり、新しいお友達を作ったりと楽しいひと時を過ごすための憩いの場所です。建物内が多いですが、外遊びができるひろばもあります。区内に42カ所開設されています。(令和4年4月時点)

自主保育

自主保育は「野外保育や豊富な生活体験を通じて、子ども一人ひとりの個性や、よいところを存分に伸ばしたい!」そんな願いから生まれたもう一つの保育の形です。世田谷では40年以上の歴史があり、身近な自然の中で、就学前のお子さんを子育て中の親同士が集まり、お子さんを交代で見守り合いながら、公園やプレーパークを拠点に自分たちで子どもを育てていく活動を行っています。

児童館

詳しい情報はこちら→



児童館は「あそび」をととして、子どもたちを健康で心ゆたかに育てていくための施設です。乳幼児の親子連れから中高生世代まで、だれでも自由に利用することができ、仲間とともに、豊かな生活体験ができる場所です。乳幼児から外遊びのプログラムを取り入れています。乳幼児が利用する場合は、保護者の方と一緒にあそびに来てください。

遊び場開放

詳しい情報はこちら→



学校の休日に、区立小学校の校庭を子どもたちの安全な「遊び場」として地域の児童・幼児を対象に開放しています。運営は、地域住民で組織された「遊び場開放運営委員会」が行なっています。開放中、子どもたちの安全確保と遊び方のアドバイスをする開放指導員を配置しています。

新BOP

詳しい情報はこちら→



新BOP事業は、子どもの健全育成を図るために、子育て家庭への支援とともに、子どもの居場所を確保し、自由な遊びや体験・交流の場や仕組みの充実に取り組んでいます。新BOPは「学童クラブ」と各小学校に在籍している子どもたちの放課後の「遊びの場(BOP)」を統合した事業です。全区立小学校内で登録制で実施しており、校庭で子どもたちが様々な外遊びを楽しんでいます。

※BOPとはBase Of Playing=遊びの基地の頭文字をとった名称

青少年委員会

詳しい情報はこちら→



世田谷区青少年委員は、世田谷区教育委員会から委嘱された非常勤職員です。区立小学校ごとに担当の青少年委員が1名おり、学校や行事、地域イベントへの協力、青少年のグループ活動の応援や相談に応じるとともに、地域・学校と行政をつなぐ役割を担っています。ダイナミックな遊びが体験できる「アドベンチャー in 多摩川」いっかだり大会などにも協力しています。